

「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」
第一弾参加アーティスト、プログラム発表！
～名古屋の港まちに多彩なアーティストが集結、ウェブ公開プログラムも～



アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会は、「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」の第一弾参加アーティストとプログラムを発表します。今回も名古屋の港まちに、国内外で活躍する多彩なアーティストが集結します。

音楽プログラムでは、名古屋市出身で多様な楽曲・プログラムを手がける野村誠らによる子どもたちに向けたワークショップ&コンサートや、公募で選ばれた弦楽四重奏団が港まちに滞在し音楽を届けるレジデンス・アンサンブルなどを実施。アートプログラムでは、愛知県出身の三田村光土里が会期中に滞在制作を行うほか、L PACK.による新スタイルのモーニングイベントなどを予定。サウンドブリッジでは、アートプログラム出展作家・ミヤギフトシの映像作品に出演する、井出健介によるライブを開催します。

また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、より多くの人へ届けるプログラムとして、過去の出演アーティストが「港まち」と再会し共演する映像作品など、ウェブで公開するプログラムも予定しています。どうぞご期待ください。

●第一弾参加アーティスト

[MUSIC] 野村 誠 / 鈴木 潤 / 北口大輔 / 黒河内彩 / Le Bois Quartet / 引田香織 / 小松 大 / 大橋志麻 /

マーメイド・ストリングカルテット / 益川京子 / 永井聖子 / パシフィック カルテット / mica+hachi

[ART] 上田 良 / L PACK. / 折元立身 / 丸山のどか / 三田村光土里 / ミヤギフトシ

[SOUND BRIDGE] 井手健介 / イ・ラン / 大城 真 / 角銅真実 / Gofish

*MUSICはプレスリリース掲載順、ART・SOUND BRIDGEは五十音順

「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」開催概要

会 期 | 2020年10月24日(土)～12月13日(日)

会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

会 場 | 名古屋港～築地口エリア一帯

主 催 | アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

[構成団体] 名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

助 成 | 2020年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人 福武財団、公益財団法人朝日新聞文化財団



公益財団法人 福武財団



※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。
ウェブサイト | www.assemblebridge.nagoya twitter | @assemblebridge FB | [assemblebridge.nagoya](https://www.facebook.com/assemblebridge.nagoya) instagram | @assemblebridge.nagoya

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会事務局

広報に関するお問い合わせ E-mail: press@assemblebridge.nagoya (担当:出会)

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX 052-652-2511(平日 9:00-17:00) E-mail contact@assemblebridge.nagoya (事務局)

開催概要

●アッセンブリッジ・ナゴヤとは

今年も港まちを舞台に、音楽とアートがあふれます。

アッセンブリッジ・ナゴヤは、名古屋の港まちを舞台に2016年よりスタートした、音楽と現代美術のフェスティバルです。音楽やアートが架け橋となり、まちと人が出会い、つながりが生まれ、新たな文化が育まれていくことを目指しています。コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、名古屋の港まちの日常に音楽やアートが溶け込み、創造性溢れる場所から風景が動き出していきます。

[アッセンブリッジ assemblebridge] とは、「集める」「組み立てる」などの意味をもつ [アッセンブル assemble] と、[ブリッジ bridge] を組み合わせた造語です。

●「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」開催趣旨

港まちから多彩な音楽・現代アートのプログラムを発信、配信

5回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症によって、文化や芸術に触れる機会が限られている現状を踏まえ、この港まちから多彩な音楽・現代アートのプログラムを発信、配信することで、豊かな時間を多くの人に届けることを目指します。

新型コロナウイルス感染拡大防止策とともに、開催の準備を行なっております。どうぞご期待ください。

●開催概要

名称 | アッセンブリッジ・ナゴヤ2020 / Assemblebridge NAGOYA 2020

会期 | 2020年10月24日(土)～12月13日(日)
会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

会場 | 名古屋港～築地口エリア一帯

主催 | アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会
[構成団体]名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

助成 | 2020年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人福武財団、公益財団法人朝日新聞文化財団



公益財団法人福武財団



※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。

メインビジュアル

5回目の節目を迎える本フェスティバル。

奥行きと動きのあるドットは、これまでのアッセンブリッジ・ナゴヤが重なり、一つになるイメージを表現しています。

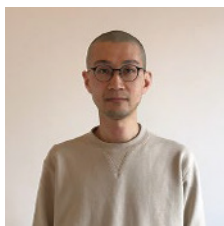


デザインディレクション、デザイン

中西 要介 Yosuke Nakanishi

1981年生まれ、神奈川県在住。株式会社 STUDIO PT。フリーランスを経て、2018年中澤耕平と株式会社 STUDIO PT. 設立。エディトリアルデザインを軸に、いろいろな媒体のデザインを手がける。

HP | studio-pt.co/



溝田 尚子 Naoko Mizota

1978年生まれ、愛知県在住。フリーランス。千種区今池にある共同オフィス Sundwich に在籍。リソグラフィスタジオ when press を仲間とオープン。愛知県を中心に、美術系のアートワークを手掛ける。

HP | www.mizotanaoko.com



デザイン | 中澤 耕平 (STUDIO PT.)、根津 小春 (STUDIO PT.)

企画体制

アートプログラムディレクター

服部 浩之 Hiroyuki Hattori

インディペンデントキュレーター／秋田公立美術大学 准教授

1978年愛知県生まれ。2009-16年青森公立大学国際芸術センター青森〔ACAC〕学芸員。近年の主な企画に、「あいちトリエンナーレ2016」、「近くへの遠まわり」（ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ・ハバナ、2018年）など。また第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーターを務めた。



青田 真也 Shinya Aota

アーティスト

1982年大阪府生まれ。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2010」、「日常／オフレコ」（神奈川芸術劇場、2014年）、「MOT アニュアル2014」（東京都現代美術館）、「ShinyaAota2014」（青山|目黒、東京）、「青田真也|よりそうかたち」(BreakerProject、大阪、2018年)など。また2015年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。

撮影 | 三浦知也



吉田 有里 Yuri Yoshida

アートコーディネーター／名古屋芸術大学 准教授

1982年東京都生まれ。BankART1929のスタッフを経て、あいちトリエンナーレ2010・2013のアシスタントキュレーターとしてまちなか展示の会場である長者町エリアを担当。2014年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。



音楽プログラムディレクター

岩田 彩子 Ayako Iwata

チェリスト

1978年愛知県生まれ。大学在学中から、チェリストとして、オーケストラでの客演や、室内楽、ソロ、レコーディング等ジャンルを隔てない演奏を続けるとともに、演奏会の企画、合唱団の立上げなど企画運営も行う。音楽大学での講師、豊田市ジュニアオーケストラの指導者等、教育活動にも力を入れている。

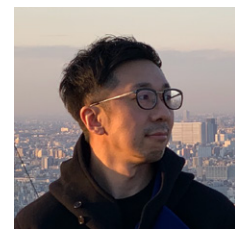


レジデンス・アンサンブルプロジェクトディレクター

北川 明孝 Hirotaka Kitagawa

ON music project 代表

1979年愛知県生まれ。2010年より、ON music projectという名前で、主にクラシック音楽分野のコンサートを開催している。この活動を通して、奏者とお客様との、奏者とコンサートとの、そして人と人との小さな縁を楽しむように、活動を継続したいと考えている。



アーキテクト

米澤 隆 Takashi Yonezawa

建築家／米澤隆建築設計事務所主宰／大同大学専任講師

1982年京都府生まれ、愛知県在住。主な作品に『公文式という建築』2011、『福田邸』2013などがある。主な受賞に、『THEINTERNATIONALARCHITECTUREAWARD2013』『日本建築学会作品選集 新人賞2015』などがある。



企画概要

音楽プログラム | MUSIC

音楽が繋ぐ、遠くと近く。

5 回目を迎えるアッセンブリッジ・ナゴヤ。今年も港まちは例年のようにあちこちで音楽が聴こえる日々を迎えるはずでした。新型コロナウイルス感染症の影響で自粛していた各地のコンサートは少しずつ再開している所もありますが、まだまだ以前のような状況とはいえません。また、配信などオンラインを通じたかたちも、もはや珍しくない状況になってきました。他県にすら行くことが憚られるときに、国内外のコンサートやイベントを配信で観られることは、「渡りに舟」であり、得られるものも多いでしょう。しかし、無観客演奏を経験し再び対面で演奏した演奏家たちは、ロ々に無観客と対面コンサートとの違いをこう語ります。やはりコンサートは観客と一緒に作るものなのだ、と。

何百年も、かたちは変えつつ続いてきたコンサートというスタイルは、そう簡単に他のかたちに置き換えられるものではありません。録音録画の技術がホールに近い音響や臨場感を持つまでに発展してきた今でも、やはりその日その時だけの音楽に会いに行く、音を肌で感じる、会場で音楽を共有する、という行為はそうは簡単に代替できないでしょう。

一連の自粛等で音楽活動をできなくなったのはプロの演奏家だけではありません。アマチュアの音楽活動、学校などの音楽教育現場でも、これまで通りの方法では実施できなくなっています。発表の機会やそれに向けての練習機会も奪われています。アッセンブリッジ・ナゴヤは、そのような「生涯学習としての音楽」に関わる人たちにも目を向けたいと思っています。

音楽は時間芸術であり、そこで生まれた演奏は、基本的にはその瞬間に消えてしまいます。この瞬間は二度と訪れないと思いつく味わうからこそ美しくもあります。

人と人の中から生まれる美しき時間が、今をまさに生きているという実感を強めてくれると信じています。

音楽プログラムディレクター | 岩田彩子

参加アーティスト

野村 誠、鈴木 潤、北口大輔、黒河内彩、Le Bois Quartet、引田香織、小松 大、大橋志麻、マーメイド・ストリングカルテット、益川京子、永井聖子、パシフィック カルテット、mica + hachi

プログラム概要

●Beethoven 250 ワークショップ & 北口大輔リサイタル

未来を担う子供たちに向けて、「音楽を続けたい」「やっていてよかった」と思えるような音楽体験や音楽家との出会いを、ワークショップとコンサートというかたちで届けます。

●レジデンス・アンサンブル プロジェクト

若手音楽家が港まちに滞在し演奏家のいるまちの姿をつくる「レジデンス・アンサンブル プロジェクト」を今季も実施します。彼らが滞在期間を通して自分たちの内面の世界を広げていくさまを、この時だからこそ考えられるかたちで実現していきます。

●みなとまちのうたプロジェクト

昨年楽曲制作として始まったプロジェクトは、制作過程を記録しながら、アーティストの目からみた今を、音と言葉により表そうとする「みなとまちのうたプロジェクト」という新しいかたちで走り出しました。

●アウトリーチ

継続的に地元の演奏家の活躍する機会も創出し、対面型のコンサートやアウトリーチ活動を行う予定です。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018
ポートハウスでの公演の様子 撮影 | 柴田祐希



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
レジデンス・アンサンブルプロジェクトの様子
出演 | ジェムカルテット 撮影 | 柴田祐希

プログラム

音楽プログラム | MUSIC

北口大輔がチェロリサイタルするかと思いきや・・・野村と鈴木が乱入してみた！ークラシックジャズチャンプルー

ジャンルを超えたコンサート。何が起ころか、何が飛び出すか、あなたも参加してみた！を。

会場 | ポートハウス

日付 | 11.23 (月祝)

時間 | 14:50-15:50

出演 | 北口大輔 (Vc)、鈴木 潤 (Key)、野村 誠 (Comp,key)

料金 | 無料、全自由席、要予約

定員 | 60 名

プログラム | J.S. Bach : 無伴奏チェロ組曲より第一番、ポール・デズモンド : テイク・ファイブ

野村誠 : Beethoven 250 - 迷惑な反復コーキョー曲



野村 誠



鈴木 潤

Beethoven250ー迷惑な反復コーキョー曲を弾いてみよう！
(ワークショップ)

楽器をもって名古屋港に集合！ベートーヴェン 250 歳の 2020 年、今ここで生まれる音に会いにきてください。

会場 | ポートハウス

日付 | 11.23 (月祝)

時間 | 14:00-14:30

出演 | 野村 誠 (Comp,Key)、鈴木 潤 (Key)、北口大輔 (Vc)

料金 | 無料、要予約

定員 | 20 名 (通常オーケストラで演奏される楽器を演奏できる小中学生。先着順)

プログラム | 野村誠 : Beethoven 250 - 迷惑な反復コーキョー曲



北口大輔

かたり、かなでる～海のむこうと水辺から

海や水辺にまつわる物語を、演奏とビジュアル (映像や人形) にのせてお届けする。美しい演奏、語りを目と耳で感じていただけるでしょう。

企画 | 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

会場 | ポートハウス

料金 | 無料、全自由席、要予約

定員 | 60 名

うみとさかなのものがたり～ 朗読 × 弦楽四重奏

海やさかなにまつわる絵本の物語を、映像と朗読とともに弦楽四重奏の生演奏でお届けします。

日付 | 10.24 (土)

時間 | 14:00-14:45

出演 | 黒河内彩 (朗読)、Le Bois Quartet (宇佐見優 (Vn)、金谷寧々 (Vn)、山内佑太 (Va)、貫名紗詠 (Vc))

題材 | 「スイミー」「さかなはさかな」「海を見たくま」



黒河内彩

プログラム

旅する歌の舟 × アイルランドの風

わたしたちの命は水から生まれ、果てしなく広がる世界は、今この瞬間も海で繋がっています。共に島国である日本とアイルランドの音楽、そして美しい言葉の響きに身をまかせ、温もりあふれる心地よいひとときをお過ごしください。

日付 | 10.25 (日)

時間 | 14:00-15:00

出演 | 引田香織 (Vo, Pf)、小松 大 (Fiddle, Va)、大橋志麻 (Irish Harp)



引田香織

人魚姫～ 弦楽四重奏 × 語り × 人形

幅広い世代に知られるアンデルセン童話「人魚姫」を、語りと人形とともに弦楽四重奏で紡ぎ、ファンタジーと光にあふれた温もりのある物語の世界へ導きます。

日付 | 11.21 (土)

時間 | 14:00-14:45

出演 | マーメイド・ストリングカルテット (森本千絵 (Vn)、波馬朝加 (Vn)、箕浦理恵 (Va)、山田真吾 (Vc))、益川京子 (語り)、永井聖子 (人形操演)



マーメイド・ストリングカルテット

レジデンス・アンサンブルプロジェクト

公募により選ばれた弦楽四重奏団が今年も 10 日間港まちに滞在し、より一層細やかに、音楽を届けます。

会場 | 名古屋港～築地ロエリアー帯

日付 | 10.24 (土) - 11.2 (月)

出演 | パシフィック カルテット

(香田早智 (Vn)、堀 脩史 (Vn)、鶴 友見 (Va)、丹羽あいり (Vc))



パシフィック カルテット

みなとまちのうたプロジェクト

Web

ピアノ弾きで歌唄いの音楽ユニットである mica+hachi。彼女たちの楽曲制作過程を音と文字で綴っていく連載。

note 配信 | https://note.com/minatomachi_uta (みなとまちのうたプロジェクト)

出演 | mica+hachi

主催 | 港まちづくり協議会

協力 | アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会



企画概要／プログラム

アートプログラム | ART

現代美術展『パノラマ庭園 - 亜生態系へ -』

アッセンブリッジ・ナゴヤは5年目を迎えます。アート部門は「パノラマ庭園」をテーマに名古屋港エリアを変容しつづける庭に見立て、プロジェクトを通じて、まちという生態系の一部としてその変化への応答を試みてきました。造園家ジル・クレマンが著作『動いている庭』で提示した「できるだけあわせて、なるべく逆らわない」（山内朋樹訳、2015年）という態度に共感し、まちでのアートプロジェクトを実践してきたと言い換えることもできます。

新型コロナウイルスが蔓延する今、多くの人々がまちやフェスティバルを訪れることが困難になりました。フェスティバルは日常生活圏を多くの人で賑わう非日常のハレの舞台へと開くものでしたが、この状況下でフェスティバルのあり方自体が問われています。一方、大きな美術館や劇場でない、まちなかの小さな空き家を主な会場とするアッセンブリッジ・ナゴヤで、実施すべきフェスティバルの規模や方法を改めて模索しています。

5年目として区切りとなる今年、もう一度原点に立ち返ることから始めたいと考えました。それは「つくる／うまれる場所」としての港まちです。アーティストが滞在し、創作に打ち込める場が港まちには複数あります。この5年間で、空き家を少しずつ整備し活動や制作の拠点としてきました。いくつかは既に解体され、またかたちを変え別の場所に移動しています。変化を受け入れつつ、これまで異なるアーティストが接木をするようにさまざまな活動をこのエリアで展開し、小さな手入れ（メンテナンス）を重ねてきました。

「できるだけあわせて、なるべくさからわない」を基底としつつも、「パノラマ庭園」はまちや人の暮らしに介入していく試みでもあります。美学者で庭師の山内朋樹は「ありふれた草花や鉢植えがそこにあることが、失調した世界に、わずかばかりの秩序をあたえている」（1）状態を、「亜生態系」と呼び、パンジーのように一見凡庸な外来種がプランターに植えられている情景が、人びとに不思議な落ち着きを与えることを肯定します。港まちの状況はここで描かれている情景に近いものでしょう。混沌のなかに小さな秩序を生み出すように、意志を持って創造し、「オープンエンド（おわりなき過程）」「境界をまたぐ」「移動と交換」「ポイエシスとミメシス（制作と再現）」などをキーワードに、それぞれのアーティストのプロジェクトを「パノラマ庭園」として展開していきます。

(1) 山内朋樹「なぜ、なにもないのではなく、パンジーがあるのかー浪江町における復興の一断面」『アーギュメント #3』2018年（P.15）

アートプログラムディレクター | 服部浩之、青田真也、吉田有里

参加アーティスト

上田良、L PACK.、折元立身、丸山のどか、三田村光土里、ミヤギフトシ

展覧会概要

現代美術展『パノラマ庭園 - 亜生態系へ -』

会期 | 2020.10.24（土）-12.13（日）会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開場

開館時間 | 11:00-19:00 * 名古屋港ポートビル展望室は 9:30-17:00

[入場は閉館の30分前まで]

会場 | 港まちポットラックビル [アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内]、
旧・名古屋税関港寮、NUCO、Super Gallery、名古屋港ポートビル展望室
ほか、名古屋港エリア内

料金 | 鑑賞にはブリッジパスが必要になります。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
折元立身『26人の港まちのおばあさんのランチ』
撮影 | 三浦知也

企画概要／プログラム

サウンドブリッジ | SOUND BRIDGE

音楽・アート・港まちをブリッジする 分野横断型プログラム

名古屋の港まちは、港湾らしい雰囲気と日々の暮らしが混ざり合う特有の環境を有しています。サウンドブリッジでは、そのような港まちとアーティストの表現が響きあう試みを、ライブ、パフォーマンス、祭りといった形態を用いて、多様なアプローチで展開してきました。まちに息づく文化と、音楽やアートをはじめとした数々の要素がシームレスにつながり、アーティストと観客がともに時間と場所を共有するプログラムです。

新型コロナウイルス感染症によって集まって空間や時間をともに過ごすことが容易でなくなった今、サウンドブリッジでは引き続き「港まち」を起点に、「体験」にフォーカスしてプログラムを行います。人と離れること、時間を異にすること、それらの要素を生かした共有の体験です。こうした状況だからこそ生まれた観点や手法が、これまで気に留めていなかった出来事や景色にスポットをあて、港まちでの新しい体験を創造します。

参加アーティスト

井手健介、イ・ラン、大城 真、角銅真実、Gofish

プログラム

みなとまちで再会するライブ映像プロジェクト Web

これまでサウンドブリッジに出演したアーティストたちが、「港まち」と再会します。港まちのさまざまなロケーションを舞台に、アーティスト同士の共演や、新たに港の風景と出会う様子を映像に記録し港まちで上映するほか、ウェブサイトでの公開も予定しています。アッセンブリッジ・ナゴヤのこれまでの軌跡から、再会によって、港まちでの新たな情景が浮かび上がります。

アーティスト | イ・ラン、角銅真実、大城 真、Gofish ほか

撮影ロケーション | 港まち各所

* 上映やウェブサイトでの公開についての詳細は後日発表します。



(上) アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019 イ・ランとみなとまち 撮影 | 三浦知也
(下) アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018 角銅真実 | こんにちのはのうしお 撮影 | 三浦知也

井手健介ライブ

アッセンブリッジ・ナゴヤ 2020、アート部門出展作家のミヤギフトシによる港まちを舞台にした映像作品に出演する音楽家・井手健介のライブ。ここでしか出来ない港まちの環境ならではのライブを開催します。

出演 | 井手健介

* 公演詳細および予約方法は後日発表します。



井手健介

港まちブロックパーティー

ブロックパーティーとは、ブロック（街区）の住民が集まって行う地域のお祝いや祭りを意味します。昔から港まちは世界中の人びとやものが行き交ってきた場所です。港まちブロックパーティーでは、パフォーマーによるステージやマーケットを開催予定。フェスティバルの最終週に、音楽やアート、港まちの文化が集まり、世代を超えてみんなで楽しむ祭りを行います。

日にち | 12.12 (土)

会場 | 築地口商店街界隈 (予定)

* イベントの詳細は後日発表します。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
港まちブロックパーティー 撮影 | 三浦知也

参加アーティスト

音楽プログラム | MUSIC

Beethoven 250 ワークショップ&北口大輔リサイタル

野村 誠 Makoto Nomura Comp

1968年、愛知県生まれ。主な作曲活動に、アリクイやシシオザルと共演する「動物との音楽」、屋根の瓦を演奏する「瓦の音楽」、演劇、ダンス、音楽、マネジメントが交差する「門限ズ」、相撲に音楽を聞く「相撲聞芸術」、だじゃれで音楽を創作する「だじゃれ音楽」、調律師と未来のピアノ奏法を探求する「ピアノの本音」、北斎漫画の音楽を創造する「考古楽」、多様な音楽が共存する「世界のしょうないオーケストラ」、東南アジアの作曲家との原発をめぐる共同作曲「魚も核武装する」など。著書に『音楽の未来を作曲する』（晶文社）、『即興演奏ってどうやるの』（あおぞら音楽社、片岡祐介との共著）など。日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。



鈴木 潤 Jun Suzuki Pf

鍵盤奏者。作曲家。ピアノ、キーボード、鍵盤ハーモニカ、足踏みオルガンなどを演奏。5歳のときピアノ・作曲をはじめ、京都大学文学部哲学科美学美術史卒業後、東京を中心にミュージシャンとして活動。国内外のアーティストのサポートキーボードとして活躍。京都移住後、ピアノソロや、サポートキーボーディスト、鍵盤ハーモニカプレイヤー、トラックメーカーとしての活動と平行して、さまざまなユニークなバンドや地域に根ざした音楽活動、長年の音楽ワークショップの経験からオーケストラや音楽大学等での音楽ワークショップのトレーニングなども行なっている。

HP | <https://suzukijun.com>



北口大輔 Daisuke Kitaguchi Vc

1978年、大阪府生まれ。東京藝術大学音楽学部、同大学院修士課程修了。ソリストとしてのオーケストラとの協演や幅広いレパートリーでのリサイタルも数多く、その演奏はいずれも高い評価を得ている。「全く危なげないソリストぶり、余裕の力演」「新鮮にして風格のある演奏」（音楽の友誌）、「実力派、頼もしい存在感を披露」（モーストリー・クラシック誌）、「彼が入る事によりチェロセクションの音が格段に引き締まる」（朝日新聞）など、音楽専門誌からもその力量を賞賛されている。ジャズやロックへの取り組みに対して2019年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。全日本学生音楽コンクール審査員。東京都交響楽団チェロ奏者、九州交響楽団首席チェロ奏者、同楽団首席客演チェロ奏者を歴任し、現在、日本センチュリー交響楽団首席チェロ奏者。大阪音楽大学特任准教授。

HP | <http://daisukekitaguchi.com>



かたり、かなでる～海のむこうと水辺から

うみとさかなのものがたり～朗読 × 弦楽四重奏

黒河内彩 Aya Kurokouchi 朗読

愛知県出身、同地在住。玉川大学文学部芸術学科芸術表現コース卒業後、2000年より劇団シアター・ウィークエンドに所属。名古屋を中心に舞台俳優の活動を行う。主な出演作品は、名古屋市文化振興事業団設立30年記念事業、井上ひさし《國語元年》南郷光役、名古屋市文化振興事業団舞台創造事業《DANCE ON THE PLANET》キャビンアテンダント役、なごや芝居の広場企画、小山内美江子《暮しの詩》野中朋代役、松本清張《ゼロの焦点》室田佐知子役、永井愛《片づけたい女たち》ツンコ役、など。2020年度なごや芝居の広場朗読ワークショップ《喜読哀楽》では講師を担当。



参加アーティスト

Le Bois Quartet ルボワ・カルテット 弦楽四重奏

宇佐見優 (Vn)、金谷寧々 (Vn)、山内佑太 (Va)、貫名紗詠 (Vc) によるカルテット。
2015 年、愛知県立芸術大学の学生 4 人で結成。室内楽を花崎 薫、小林 道夫、百武 由紀の各氏に師事。2016 年プラジャーク カルテット、2017 年ハンス・クリスティアン・シュバイカー氏によるマスタークラスを受講。第 3 回宗次ホール弦楽四重奏コンクールに出場し、原田 禎夫、ヴァーツラフ・レメシュ、百武 由紀の各氏によるマスタークラスを受講。愛知県立芸術大学選抜による室内楽のタベ Vol.15、16 に出演。現在、名古屋市内を中心に演奏活動を多方面で展開する。「Le Bois」はフランス語で「小さな森」の意で、季節によって様々な表情を見せる愛知県立芸術大学の自然豊かなキャンパスをイメージしている。



旅する歌の舟 × アイルランドの風

引田香織 Kaori Hikita Vo, Pf

1986 年福岡県生まれ。北九州市出身のシンガーソングライター。2005 年 TV アニメ「LOVELESS」ED テーマ「みちゆき」で全国デビュー。透明感のある歌声と独特の世界観が好評を博し、梶浦由記氏をはじめ豪華作家陣による楽曲提供で話題となる。2014 年、アイルランドでの一人旅の中「日本語の響きの美しさ」を再確認し、現地で童謡や唱歌などを歌ってまわる。帰国後、詩人谷川俊太郎氏のもとへ会いにゆき「谷川俊太郎をうたう」と題して活動を展開。2016 年、豪華客船「ダイヤモンドプリンセス」にて日本人としては初となるピアノラウンジでのゲストエンターテイナーを務める。2017 年、ニューヨークで音楽療法を学んだのち、株式会社アース・キッズにて発達障害をもつ子どもたちに対する音楽療育プログラムを考案する「音楽文化療育士」のコンサルタント業務を担当。2019 年、現代詩をうたうコンセプトの自主制作アルバム「わたしが一番きれいだったとき」を発表。

HP | <https://hikitakaori.wordpress.com/>



小松大 Dai Komatsu Fiddle

音楽と人と場所をつなぐアーティスト。2004 年にアイルランド音楽と出会う。パット・オコナーら現地のプレイヤーから学んだフィドルは力強いリズムと美しいフレージングが持ち味。フィドルとギターのデュオ“Dai Komatsu & Tetsuya Yamamoto”で 2 枚の CD をリリース。2019 年に株式会社 Ode (オード) を設立し CEO に就任。袋井市や成田市で開催されたアイルランドフェスティバルの制作、豊洲スタイルマーケットや岡崎トレッドゴードマーケットをはじめ、多くの野外イベントの音楽プロデュースを行っている。2020 年 8 月、愛知県の山あいにある足助町を舞台にした映像作品「Asuke 夏の音」を制作する。美しい映像とアイルランド音楽が融合した作品は国内外で反響を呼んだ。愛知県立芸術大学音楽部卒業。

HP | ode-inc.com



大橋志麻 Shima Ohashi Irish Harp

9 歳よりクラシックハープを習い始め、12 歳の時に長屋梨沙氏に出会いアイリッシュハープを本格的に始める。その後アイルランドへ渡り Junshi Murakami 氏、Grainne Hambly 氏に個人レッスンを受けるほか、アイルランドのハープフェスティバルに複数参加。2018 年より演奏活動を本格的に開始し、フルートの瀧澤晴美とデュオ Fiona を結成する。2019 年 9-10 月に香嵐渓で開催された木曜グリーンマーケット公式アーティストをつとめる。2019 年 11 月には東海地方で最大規模のマルシェイベント「マーケット日和」に小松大、中村大史 (John John Festival, tricolor) とともに出演。2020 年 8 月、映像作品「Asuke 夏の音」に出演。



参加アーティスト

人魚姫～ 弦楽四重奏 × 語り × 人形

マーメイド・ストリングカルテット Mermaid String Quartet

森本千絵 (Vn)、波馬朝加 (Vn)、箕浦理恵 (Va)、山田真吾 (Vc) によるカルテット。
J. テイラー作曲の「人魚姫」公演のために結成された弦楽四重奏団。メンバーはヴァイオリンの森本千絵を中心に東海地区で活躍する実力派の演奏家で毎回構成される。



益川京子 Kyoko Masukawa 語り

愛知県生まれ、同地在住。俳優。NHKリポーター、アナウンサー等を経て現在はナレーションや司会も務めている。朗読劇からミュージカルまで活躍の場を広げている。ラジオドラマ「採光・大府ロマンス街道」アトリエあうんプロデュース、リーディングドラマ「街角の童話」等出演。



永井聖子 Seiko Nagai 人形操演

岐阜県生まれ、愛知県在住。1982年人形劇団むすび座へ入団。数々の作品で東海地方を中心に全国を巡演。一人芝居ではシアトル (U.S.A) の人形劇フェスティバルに自主参加。人形劇団むすび座制作部で活動する傍ら「あいちトリエンナーレ 並行企画 文楽人形オペラ おさん 伊八～陸月連理玉椿～」、愛知人形劇センター創立30周年記念制作事業『ジェニィ ～白猫ピーターの不思議な冒険～』などに人形操演で参加。



レジデンス・アンサンブル プロジェクト

パシフィック カルテット Pacific Quartet

若手音楽家を育成する国際教育音楽祭、パシフィック・ミュージック・フェスティバル (以下PMF) の修了生の、香田早智 (Vn)、堀脩史 (Vn)、鶴友見 (Va)、丹羽あいり (Vc) により2017年に結成した弦楽四重奏。PMF委員会より選抜され、PMF北海道倶楽部、PMF東京札幌会、PMFコンサートin札幌など演奏現場を重ねる。また、(歌手)半崎美子のサポートストリングスや、100万人のクラシックライブでの演奏など活動の幅を広げる。



みなとまちのうたプロジェクト

mica + hachi ミカハチ

mica bando と長谷川久美子による、アンサンブルユニット。主に鍵盤楽器と声を用いる。音が作る空間、「まち」と「ひと」の繋がり、その瞬間に生まれる音楽を大切にするコンサート「オトケシキ」を筆頭に、日本各地でコンサートやWSを行っている。



参加アーティスト

アートプログラム | ART

上田 良 Yaya Ueda

1989年大阪府生まれ、神奈川県在住。自作のオブジェを撮影した写真作品をはじめ、版画やドローイング、コラージュなど幅広い制作を行いながら、アーティストユニット「THE COPY TRAVELERS」の一員として「複製」という手法の可能性について実験を試みている。「MAT, Nagoya Studio Project」に参加し、約1ヶ月港まちに滞在。今回は、滞在中に制作した、風景にとどまらないまちの要素を取り入れた新作を中心に展示を行う。近年の主な個展に「空間運動朝機」(gallery TOWED、東京、2019年)、「A Magpie's Nest」(galerie16、京都、2018年)、「めくるめくらむ」(awai art center / 信州大学附属図書館、長野、2017年)、「Small Scenery」(YEBISU ART LABO、愛知、2016年)などがある。これまでに「群馬青年ビエンナーレ2019」奨励賞、「VOCA展2017」VOCA奨励賞、「写真新世紀展2015」佳作賞を受賞。

HP | yayaueda.com



《A Magpie's Nest》2019

L PACK. エルパック

小田桐奨と中嶋哲矢のユニット。「コーヒーのある風景」をテーマにアートやデザイン、建築、民藝など領域を横断し、コミュニケーションの場をさまざまな場所で創造する。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2016年から現在まで継続するプロジェクトとして約20年間空き家となっていた旧・寿司店を《UCO》として再生し、人びとが集う「まちの社交場」として開いてきた。《UCO》は2018年に取り壊しとなったが、これまでの活動やコミュニティを継続するべくその機能を移転し、新たな空き家を再生して《NUCO》としてプロジェクトをさらに展開している。

主なプロジェクトに「WEMON PROJECTS」(池上エリア、東京、2019年-)、「DAILY SUPPLY SSS」(八反橋フードセンター、神奈川、2018年-)など。主な展覧会に、山形ビエンナーレ「彫刻のある喫茶店 NEL MILL」(東北芸術工科大学、山形、2018年)、工芸の五月「池上喫水社」(池上邸、松本、2018年)などがある。また名古屋では、あいちトリエンナーレ2013期間中「NAKAYOSI」名義で《VISITOR CENTER AND STAND CAFE》を運営。

HP | www.lpack.jp



《NUCO》2019-
撮影 | 富田了平

折元立身 Tatsumi Orimoto

1946年神奈川県生まれ、同地在住。1969年渡米。1972年からニューヨークで、アーティストのナムジュン・パイクや前衛芸術運動・フルクサスに関わる。1977年に帰国、川崎市を拠点にパフォーマンスや写真、映像、ドローイングなど幅広い作品を世界各地で発表。顔一面にパンを付け各地の人びとと交流する路上パフォーマンス「パン人間」や、自身が介護するアルツハイマー症の母親を題材にした「アート・ママ」シリーズで注目を集める。

アッセンブリッジ・ナゴヤ2019では、これまで世界各地で開催してきた「おばあさんのランチ」のプロジェクトを、港まちのおばあさんを招いて行った。2年にわたるプロジェクトとして、今回はその記録映像を発表する。

主な展覧会に、個展「昔と今」(尾道市立美術館、広島、2018年)、個展「生きるアート 折元立身」(川崎市市民ミュージアム、神奈川、2016年)、「ヴェネチア・ビエンナーレ」(イタリア、2001年)、個展「アート・ママ」(原美術館、東京、2000年)、「サンパウロ・ビエンナーレ」(ブラジル、1991年)、「シドニー・ビエンナーレ」(オーストラリア、1988年)などがある。



《26人の港まちのおばあさんのランチ》2019
撮影 | 三浦知也

参加アーティスト

丸山のどか Nodoka Maruyama

1992年新潟県生まれ、愛知県在住。ベニヤや角材などの製材された木材を用いて、言葉や風景を表象的に切り取り、立体化する作品を制作。近年では、パソコンやスマートフォンなどの液晶画面に流れる情報を「現代の風景」の一部として記号的に取り入れるなど、現実と虚像の間を空間に配置する作品を発表している。

今回は、港まちをはじめとした名古屋一帯の地域性から自身が感じ取ったトピックと、個人的な経験にまつわるエピソードを重ね合わせた主題をもとに、港まちで制作した新作インスタレーションを発表する。

主な展覧会に、ファン・デ・ナゴヤ美術展・個展「風景をみる／風景にみる」(市民ギャラリー矢田、愛知、2019年)、足助ゴエンナーレ「足助的芸術境界」(足助商店街各所、愛知、2018年)、「3331 ART FAIR 2018」(3331 アーツ千代田、東京、2018年)、「アタミアートウィーク 2017 -天つ風むすぶ熱-」(熱海市内各所、静岡、2017年)などがある。

HP | www.nodokamaruyama.com



《風景をみる／風景にみる》2019
撮影 | 高田強平

三田村光土里 Midori Mitamura

1964年愛知県生まれ、東京都在住。「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、日常の追憶や感傷のモチーフを写真や日用品、テキストなど、これまでさまざまなメディアを組み合わせたインスタレーションを発表。また自身が滞在し進行するインスタレーションと、参加者が朝食をとるイベントがひとつになったプロジェクト「Art & Breakfast」シリーズをはじめ、世界各地で活動を展開している。

今回は、海外に住む親しい友人たちとの再会をテーマにした映像作品《Till We Meet Again》(2013年)の上映とともに、会期中、旧・名古屋税関港で滞在制作を行う。

主な展覧会に、個展「Art & Breakfast ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア」(CAAM - Atlantic Center of Modern Art スペイン、2017年)、「あいちトリエンナーレ 2016」(愛知芸術文化センター、2016年)、個展「Green on the Mountain」(ウィーン分離派館・セセッション、オーストリア、2006年)などがある。

HP | www.midorimitamura.com



《アート&ブレイクファスト》2016
撮影 | 柘土鉄夫

ミヤギフトシ Futoshi Miyagi

1981年沖縄県生まれ、東京都在住。留学先のニューヨークにて、制作活動を開始する。自身の記憶や体験に向き合いながら、国籍や人種、アイデンティティ、セクシャリティといった主題について、映像、オブジェ、写真、テキストなど、多様な形態で作品を発表。また小説の執筆や文芸誌への寄稿など、美術分野以外でも活動の幅を広げている。

今回は、あいちトリエンナーレ 2016 で発表した映像インスタレーション《いなくなってしまった人たちのこと / The Dreams That Have Faded》と、その続編でイタリアと名古屋港で撮影した新作《音と変身 / Sounds, Metamorphoses》(愛知県美術館オリジナル映像作品)をインスタレーション形式で発表。港まちの複数の会場でも展示を行う。

主な展覧会に「現在地: 未来の地図を描くために」(金沢 21 世紀美術館、石川、2020年)、「話しているのは誰? 現代美術に潜む文学」(国立新美術館、東京、2019年)、「近くへの遠回り - 日本・キューバ現代美術展」(ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ、2018年)、「蜘蛛の糸」(豊田市美術館、愛知、2016年)などがある。

HP | fmiyagi.com



《音と変身》2020

参加アーティスト

サウンドブリッジ | SOUND BRIDGE

井手健介 Kensuke Ide

1984年宮崎県生まれ、東京都在住。音楽家。東京・吉祥寺バウスシアターの館員として爆音映画祭等の運営に関わる傍ら、2012年より「井手健介と母船」のライブ活動を開始。さまざまなミュージシャンと演奏を共にする。

バウスシアター解体後、アルバムレコーディングを開始。2015年8月に1stアルバム『井手健介と母船』（Pヴァイン）、2017年に12インチ・EP『おてもやん・イサーン』（EMレコード）、1stアルバム・ヴァイナル・エディション（Pヴァイン）をリリース。また2020年4月には、石原洋サウンドプロデュース、中村宗一郎レコーディングエンジニアのタッグにより制作された、「Exne Kedy And The Poltergeists」という架空の人物をコンセプトとした2ndアルバム『Contact From Exne Kedy And The Poltergeists（エクスネ・ケディと騒がしい幽霊からのコンタクト）』を発表する。

その他、映像作品の監督、楽曲提供、執筆など、多岐に渡り活動を続ける。

HP | <http://www.idekensuke.com>



イ・ラン (이랑) Lang Lee

1986年韓国・ソウル生まれ。音楽、映像、漫画、イラスト、エッセイなど、表現活動は多岐にわたる。セカンド・アルバム『神様ごっこ』で2016年に韓国大衆音楽賞最優秀フォーク楽曲賞を受賞。日本では2016年に柴田聡子との7都市ツアーを行い、その後共作盤『ランナウェイ』を発表。2018年の単独ツアーも全4都市5公演すべてがソールドアウト、その東京公演はライブ・アルバム『クロミョン〜 Lang Lee Live in Tokyo 2018〜』に収録されている。最近作は2020年にリリースしたデジタル・シングル「患難の世代」。彼女が紡ぎ出す音楽をはじめとした表現、真摯で嘘のない発言やフレンドリーな姿勢・思考は、国籍や性別、さまざまな立場を超え、広く人びとの心を揺さぶり、センセーションとシンパシーを生んでいる。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2019年にライトアップされた南極観測船ふじを背景に、ライブ「イ・ランとみなとまち」を行った。歌詞の日本語字幕も投影し、観客へ歌とメッセージを届けた。



大城 真 Makoto Oshiro

1978年沖縄県生まれ、東京都在住。音を出すために自作した道具、または手を加えた既製品を使ってライブパフォーマンスを行う。また並行して音・光・動きによる周期の干渉を利用したインスタレーション作品を発表。

自身の活動のほか、サウンドエンジニアとして、イ・ランや角銅真実など多数のアーティストの作品を手がける。レーベル「Basic Function」主宰。

2010年夏に開催された梅香堂（大阪）での展覧会「夏の大△（なつのだいさんかく）」を機に、川口貴大、矢代諭史とともに「夏の大△」として活動を開始し、不定期にライブやイベント、展覧会を行う。日常にありふれた道具や材料、音を発する物、台や脚立なども使い、空間全体を取り込んだインスタレーションとパフォーマンスを展開する。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2019年に「夏の大△ サウンドパフォーマンス」を行い、幼稚園内の複数の空間を大胆に使用したパフォーマンスを行った。



参加アーティスト

角銅真実 Manami Kakudo

1988年長崎県生まれ。音楽家、打楽器奏者。マリンバをはじめとするいろいろな打楽器、自身の声、言葉、身の回りの気になるあらゆるものを用いて、音楽といたずらを紡ぐ。その形はインスタレーション、アートプロジェクトでの作品制作にも及び、演奏だけにとどまらない作家としての自由な表現活動を国内外で展開している。

ソロでの活動のほか、バンド・ceroのサポートメンバーとして活動。そのほか原田知世やORIGINAL LOVEなど、様々なアーティストのライブへの参加、作品にレコーディングで携わるほか、CM・映像、ダンスやインスタレーション作品への楽曲提供・音楽制作など幅広い活動を行う。

2016-2019年には、ドラマー・石若駿の『Song book1,2,3,4』に歌詞提供と歌唱で参加。近年は原田知世に作詞家として歌詞を提供するなど、言葉にも表現領域を広げている。

2020年1月、初めて「うた」にフォーカスしたアルバム『oar』（ユニバーサルミュージック）を発表。7月にはBunkamuraシアターコクーンで上演された演劇作品『プレイタイム』の音楽を担当。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2017年「みなと音めぐり」に出演、2018年には取り壊しが決まったUCO（旧・潮寿司）にて、音楽家の横手ありさと美術家の山城大督とともに音楽と映像による企画「こんにちはのうしお」を行った。

HP | <https://manamikakudo.wordpress.com/>



Gofish ゴーフィッシュ

1973年岐阜県生まれ、愛知県在住。1995年に結成したハードコア・パンクバンド「NICE VIEW」のギター/ボーカルをつとめる一方（現在は活動休止中）、2000年頃より歌とギターをメインとしたソロプロジェクト「Gofish」を始める。Gofish名義では、これまでに5枚のアルバムをリリース。ライブやリリースの活動を続けている。またイ・ランや柴田聡子など、さまざまなアーティストとのコラボレーションも多数行っている。近年では、音楽とスパイスの宴「カレー・ミーティング」や「カレーとノイズ、その他」を主催するなど、活動の幅を広げている。2020年8月から10月には名古屋港エリアで展開するアートプログラム MAT, Nagoya の「スタジオプロジェクト vol.6」に参加し、制作・活動発表を行う。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2017年に音楽を奏でながらまちをめぐる「みなと音めぐり」に出演、2018年にはソロライブ「UCOの裏庭ライブ」を実施、2019年はテライショウタ名義でNUCOにてカレーイベント「Curry Shop by Shota Terai」を行った。



チケット情報

●チケット

ブリッジパス ¥700

現代美術展や各プログラムに参加するためのパスです。

会期中、総合案内（港まちポットラックビル）にてご購入いただけます。

※港まちポットラックビル以外の各展示会場では販売していませんのでご注意ください。

* 総合案内は木曜、金曜、土曜、日曜、祝日の 11:00-19:00 に開館しています。

* 公演やトークなどブリッジパスが必要なイベントでは、イベント当日、イベント会場の受付でもご購入いただけます。

・名古屋港ポートビル展望室入場券が含まれます。

・ご本人に限り会期中何度でも利用可能です。（*名古屋港ポートビル展望室は1回のみ）

・中学生以下は無料です。（*名古屋港ポートビル展望室は除く）

・障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方2名までは100円割引になります。ブリッジパスをご購入の際、手帳をご提示ください。

以下のチケットをご提示の方は100円引きいたします。購入の際ご提示ください。

・名古屋市交通局のドニチエコきっぷ、一日乗車券（ご利用開始後、有効期限内のチケットに限る）

各種割引の併用はできません。ご了承ください。

●公演予約

<名古屋市文化振興事業団公演>

【うみとさかなのものがたり～朗読×弦楽四重奏】【旅する歌の舟×アイルランドの風】【人魚姫～弦楽四重奏×語り×人形】

予約開始|2020.9.15(火)

予約締切|公演3日前まで

予約方法|「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」ウェブサイト内チケットページの指定のメールフォームにて、ご予約をお願いいたします。

【お問合せ】

名古屋市文化振興事業団

TEL|052-249-9385

メール|assemblebridge.nagoya@bunka758.or.jp

* その他の公演の予約の詳細については随時発表します。

新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。
最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。

ウェブサイト| www.assemblebridge.nagoya

twitter | @assemblebridge twitter.com/assemblebridge

FB | assemblebridge.nagoya www.facebook.com/assemblebridge.nagoya

instagram | @assemblebridge.nagoya www.instagram.com/assemblebridge.nagoya

* プレスリリースは、公式ウェブサイト内プレスページよりダウンロードいただけます。

* ご取材、広報用画像のご希望等、広報に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

* メールでお問い合わせいただくと、最もスムーズに対応可能です。

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会事務局

E-mail | press@assemblebridge.nagoya (広報|担当: 出会)

contact@assemblebridge.nagoya (事務局)

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX | 052-652-2511 電話受付時間 | 月曜-金曜 (9:00-17:00)